

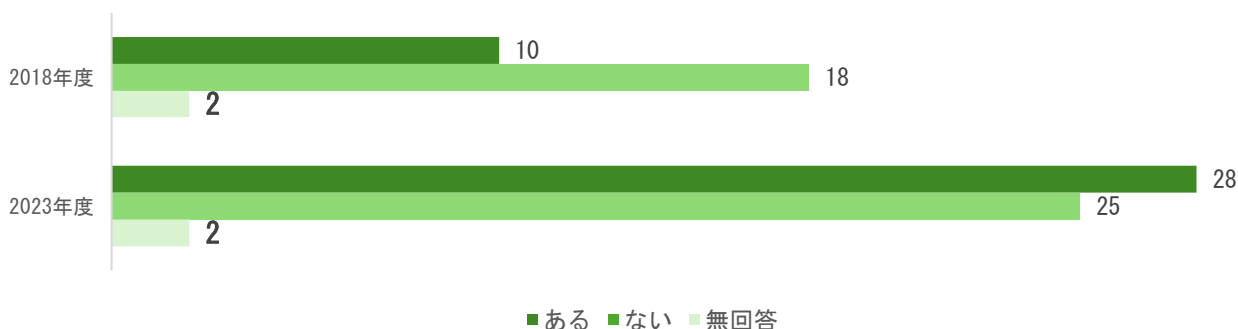
2. 日本語教室（成人対象）実施団体

教室主催団体別回答数

	市町	国際交流協会	NPO 法人※	民間ボランティアグループ	合計
2018年	2	22	2	4	30
2023年	4	31	5	15	55

※「ひょうご国際交流団体協議会構成団体」に含まれる NPO 法人は国際交流協会とする

【問1】活動目標や教室のルールボランティア学習支援者の在り方等について書かれたものの有無について



各団体で大切にしていること（自由記述の回答から項目を立て内容を記載）

項目	内容
交流	<ul style="list-style-type: none"> ただ日本語を学習するだけでなく、学習者同士や学習者と日本人との交流を図るため、自国の歌、踊り、ゲームなどで交流するような場を企画している。
生活者としての外国人に対する支援	<ul style="list-style-type: none"> 日本での暮らしに役立つように、日常会話や日常でよく使う言葉が読めるように「生活者」として必要な日本語を学べる場所、外国人にとっての居場所という考え方で活動している。 外国人が安全・安心して暮らせるよう生活に役立つ日本語を身につけることを支援している。 文法や日本語を教えることも必要だが、会話をし、その人が何に困っているかを読み取ったり、国のことを話したりしながら、日本で生活しやすいように会話を重視している。 生活していくための日本語を大切にしているため、初心者、初級者を優先している。 あくまで町での生活に困らないための日本語習得を目指す。その過程で希望があれば講師と相談し日本語検定受験用の勉強をヘルプする。 実習生に関しては災害時の避難場所の案内、食品の備蓄指導を行っている。 学習者が日本での生活をより快適になるよう担当スタッフがプライベートの相談に乗ることがある。 学習者が日本での生活に不安を感じないよう支援していきたいと考えている。そのため、勉強だけでなく、日本の習慣・文化等も伝え、日本に来て良かったと感じてもらえるよう、アットホームな雰囲気を大事に、サロンとして開催している。
学習者のニーズに寄り添った支援	<ul style="list-style-type: none"> 生活相談、時間調整、多様な学習方法を工夫している。 クラスの中で出た相談事は協会事務局対応できるように連携している。

II 調査結果 2. 国際交流協会・地域日本語教室（成人対象）

	<ul style="list-style-type: none"> ・学習者のニーズに合わせたサポートを心掛けている。 ・学習者個人の日本語への向き合い方に応じて出来るだけ要望に答えられる様 支援をしている。 ・受講生の教室に通う目的を尊重している。 ・学習者の求める学習目標に応える。
相互理解	<ul style="list-style-type: none"> ・外国人住民と日本人住民が対等な立場で共に学び育つ場と考えている。 ・学習者（中国残留邦人帰国者とその家族）の状況を理解することを大切にしている。 ・学習者と支援者双方がお互いに敬意をもって接してもらいたいと考えている。 ・日本語教室では教える側／教えられる側になりがちであるが、教室外を含み私たちが助けてもらうことはあるので、お互い様と言う気持ちを大切にしている。また、ボランティア同士も上下関係はなく、対等と考え、学習者が先生ということはあるが、ボランティア同士では～さんと呼ぶようにしている。 ・学習者の背負う歴史・背景を理解する、 ・学習者の文化を尊重し、一方で、話題の中で日本社会のルールを説明したり、文化を紹介したりする。
支援者研修	<ul style="list-style-type: none"> ・日本語教育に係ることだけではなく、地域日本語教室の在り方、外国人住民の状況、多文化共生等も取り上げる。 ・日本語指導技術の向上を目指して実施している。 ・ボランティアの継続参加やブラッシュアップ、不安解消などのため、交流会や外部講師による研修を定期的で開催している。
居場所づくり	<ul style="list-style-type: none"> ・楽しく活動できる雰囲気づくりを大切にしている。 ・遠足、バスツアー、書道教室、料理教室などのイベントも行い、学習者が楽しんで来られる居場所づくりを目指している。 ・学習者も支援者も同じ地域に住む方で構成している。隔週や週に1回の日本語教室では居場所としての機能は不足している。そのため双方が同じ地域に住んでいることで、教室がない日もスーパーやクリニックで会うことがある。地域の情報共有等も可能である。 ・楽しく継続することを大切にしている。 ・「ともだち」として接する ・教室が学習者・指導ボランティア両者にとって、安心安全な居場所になることを目指している。
支援方法	<ul style="list-style-type: none"> ・クラスの前と後にボランティアと講師の打ち合わせ会、報告会を毎回開催し、考えや気づきを共有している。（ノートも書いている） ・マンツーマンによる、学習者ひとりひとりに寄り添った支援を大切にしている。 ・教材を充実させることを目指している。 ・あくまでも直接法で教えること、基本的なことをしっかり学んでもらっているが、難しい言葉よりやさしくてきれいな日本語を話してもらえるように指導している。 ・学習意欲のある学習者には出来るだけ学習しやすい環境（子供を持つ主婦の場合は 訪問学習等）を作る。 ・文法や日本語を教えることも必要だが、会話をし、その人が何に困っているかを読み取ったり、国のことを話したりしながら、日本で生活しやすいように会話を重視している。 ・日本語教室の時間は日本語のみを使用することとしている。 ・生徒の人数が多くなると自国語で話すことが多くなるため、なるべく少人数の教室になるようにしている。

II 調査結果 2. 国際交流協会・地域日本語教室（成人対象）

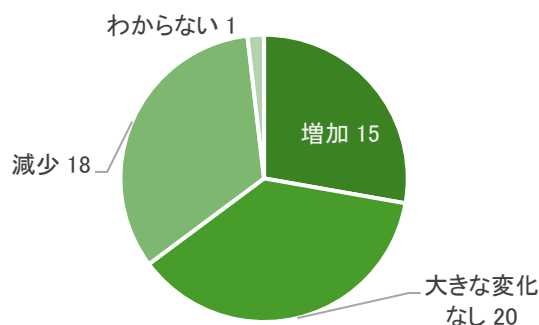
コーディネーターの配置	<ul style="list-style-type: none"> ・ 学習者、ボランティアがともに安心して教室に参加し、日本語による交流を楽しめるよう、常に日本語教師有資格者のコーディネーターが教室内に待機しており、いつでも質問や依頼を受け付けられるようにしている。 ・ 学習者に関する情報を支援者とコーディネーターが共有する。
教室の周知	<ul style="list-style-type: none"> ・ 日本語教室の活動を知ってもらうため、協会ホームページや情報誌に掲載している。
ニーズの把握	<ul style="list-style-type: none"> ・ 学習者へのアンケートや、指導ボランティアミーティングの開催によって意見を吸い上げる。 ・ 学習者のニーズとレベルに合わせた学習サポートをするため、参加者にアンケートを取り、マンツーマン・グループ形式で行い、コーディネーターがボランティアとのマッチングを行う。また、学習を進める中での新たなニーズや質問に答えられるよう、毎回の学習後に振り返りを記入してもらっている。

【問2】地域日本語教室とは？（上位5つまで選択可）（%）



【問3】2019年度から現在までの学習者の変化について

(1) 教室参加者数



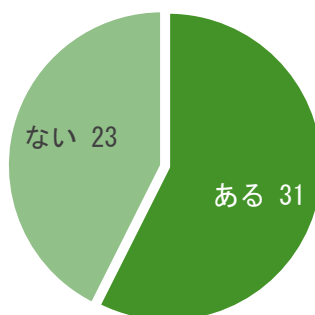
(2) 学習者の人数や属性の変化について(自由記述の回答から3つの項目を立て、地域別に記載)

地域	学習者数	属性等	その他
阪神	<ul style="list-style-type: none"> ・コロナ禍によりいったん減少したが、2022年秋より増加。 ・高齢化とコロナの影響で減少傾向にある。 ・市内に外国人を雇用する大きな企業などがいないため、特に変化なし。 	<ul style="list-style-type: none"> ・技能実習生が増加している。 ・技能実習生の増加でベトナム、インドネシアの出身者が多い。 ・特定技能が若干増えている。 ・ネパールの学習者が増えた。 	<ul style="list-style-type: none"> ・2018年からこれまでのやり方を大きく変えて来たことで、受け身ではなく主体的な参加者が増えてきたと思われる。 ・能力試験対策を希望する学習者が増加傾向にある。
東播磨	<ul style="list-style-type: none"> ・学習者の高齢化とコロナ禍により減少している。 ・コロナ以降、登録されている学習者の全員は戻ってきていない。 ・コロナの影響で1～3人ぐらいに減少した。そこから様々なニーズに応えるようになった。 	<ul style="list-style-type: none"> ・子どもの学習者で母国の中学校を卒業してから来る子が増えた。 ・中国残留孤児1世が減少し、2世の比率が大きくなっている。 ・ベトナム人、インドネシア人が減少傾向にあり、ネパール人が増加している。 ・小さい子どもの親が多い。 	
北播磨	<ul style="list-style-type: none"> ・コロナ禍による工場の操業停止などの影響で、令和2～3年は爆発的に受講希望者が増えた。しかし、令和4年以降はコロナ前の人数に戻り、現在は支援者不足もあり以前の人数より学習者は少ない。 (受講希望者には待機いただいている状況) 	<ul style="list-style-type: none"> ・技術・人文・国際または特定技能の在留資格を持っている人が増加している。 ・夫婦や家族で教室に参加するケースも増えている。 ・以前はほとんどが技能実習生だったが、現在は家族滞在や技人国の在留資格が増加している。 	
中播磨	<ul style="list-style-type: none"> ・直近3年はコロナの影響が大きく、学習者にとっても不安な期間だったため、人数は減少している。中国人学習者はゼロになった。 ・コロナが落ち着き、少しずつ学習者の数が戻りつつある。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ミャンマー人が2022年10月から3人来ている。事業主は3年で帰国と思っているが内戦で帰国できない。 	
西播磨		<ul style="list-style-type: none"> ・令和元年度まではALTがほとんどであったが、働きに来ている方や日本人の配偶者等が増えてきている。 	
但馬		<ul style="list-style-type: none"> ・ベトナム、ネパール国籍が増加。近年、呼寄せの幼児、児童、子どもが増えている。 ・多様な国籍・背景の外国人が、多様な仕事・勤務体制で働いている。家族滞在も増えてきているので、子どもも増えている。 	

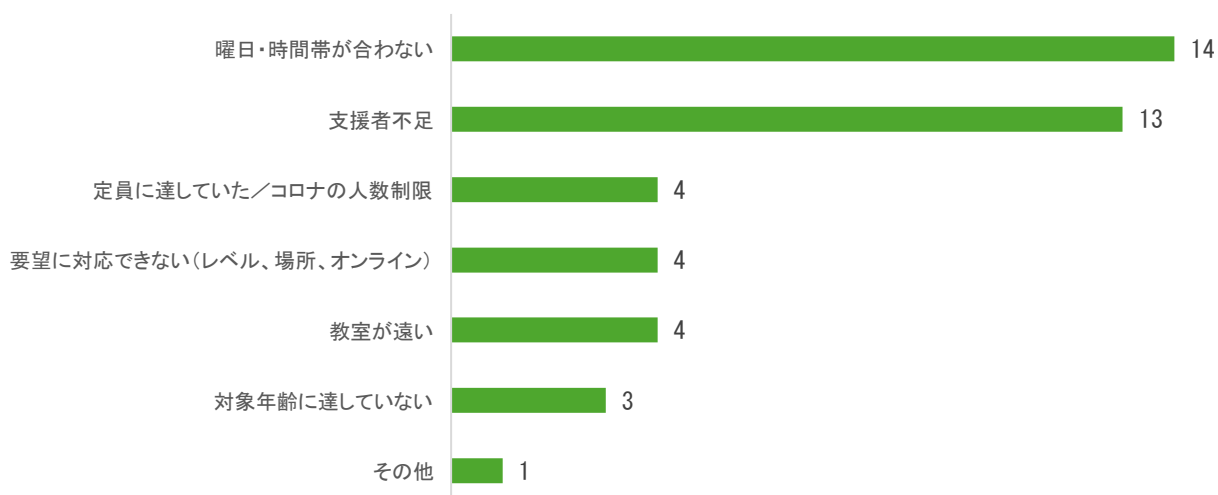
II 調査結果 2. 国際交流協会・地域日本語教室（成人対象）

		<ul style="list-style-type: none"> ・ALTの先生が増えたとの印象があるが、一時的なことかもしれない ・中国人が減り、インドネシア人が増えた。 	
丹波		<ul style="list-style-type: none"> ・学習者の国籍が多様化している。 ・ベトナム人の動きが人数増減に反映されている。 ・ベトナムからの技能実習生は減少傾向にある一方、インドネシアからの学習者が今年度から初めて参加している。 	

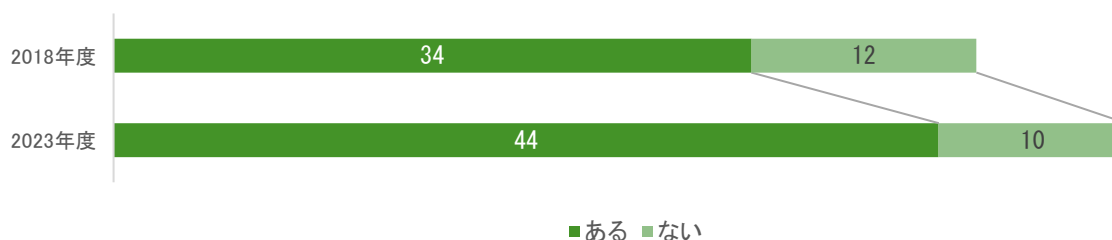
(3) 学習希望者を受け入れられなかったこと



受け入れられなかった理由



【問4】関係機関との連携



連携協力先及び、その内容

連携・協力先	内容
市町	事業受託、財政補助、運営補助、指定管理者として業務提携、意見交換、ゴミ分別啓発事業、外国人住民の社会参画に関する連携、防災訓練において外国人支援の在り方を共有
市町国際交流協会	研修の実施、情報共有
HIA	教室運営助成、研修等の講師紹介依頼、新規教室開設支援、教室運営に関する相談、調査協力
他の地域日本語教室	多文化交流事業、情報交換、学習者紹介、支援者の紹介
地域コミュニティセンター	地域運営における協働、地域交流活動、
教育委員会	教室案内、外国ルーツの児童生徒の情報共有や支援に関する相談、学習会の共催、保護者向けの相談
高校	文化交流、日本語教室ボランティア
夜間中学	教室案内
大学	スピーチコンテスト開催、日本人学生の日本語教室見学、子供の教科学習支援、異文化交流、多文化共生理解ワークショップへの講師派遣依頼
日本語学校	スピーチコンテストへの参加
県民局	座談会、
警察	特別授業（自転車等の交通ルール）
社会福祉協議会	生活困窮者への支援や情報共有
商工会・商工会議所	協会事務を市から受託、教室案内
監理団体	学習者受け入れ
企業	企業内教室実施、講師派遣、従業員家族への支援、イベント案内
株式会社URコミュニティ	会場の提供
生活協同組合	イベントへの協力
ロータリークラブ	交流事業
近隣のカフェ	交流イベントへの会場無償提供

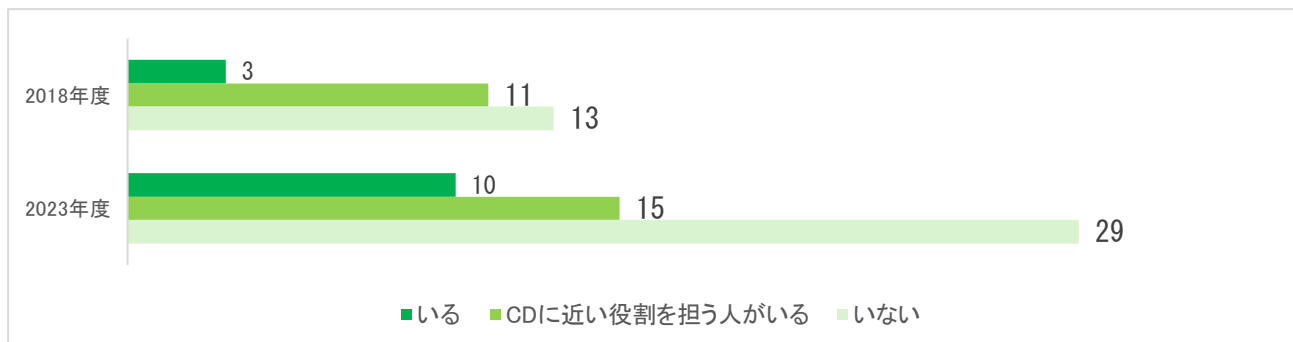
【問5】活動の財源（複数回答可）



※その他の回答:市からの指定管理料/協賛金

【問6】地域日本語教育コーディネーターの配置

(1) 地域日本語教育コーディネーターの配置の有無



(2) 地域日本語教育コーディネーター、あるいは、そのような役割を担っている人の属性等

回答1：地域日本語教育コーディネーター

回答2：地域日本語教育コーディネーターに近い役割の人

属性等	回答1	回答2
日本語教室実施主体の職員（市町、国際交流協会、NPO）で日本語教育関連事業専従	0	1
日本語教室実施主体の職員（市町、国際交流協会、NPO）で他の業務と兼務	6	4
日本語学習支援者でコーディネーター業務に対して報酬が支払われている	0	1
日本語学習支援者でコーディネーター業務に対して報酬が支払われていない	2	6
その他	2	3

- ※その他
- ・日本語教育専門家に依頼（任期1年）
 - ・行政や企業と関係するメンバーが随時行っている
 - ・受託事業は報酬あり。自主教室は報酬なし
 - ・日本語ボランティア講師の方が日本語プログラムコーディネーターを担う
 - ・協会理事

(3) 地域日本語教育コーディネーター、あるいは、そのような役割を担っている人の研修受講歴及び資格（複数回答可）

回答1：地域日本語教育コーディネーター

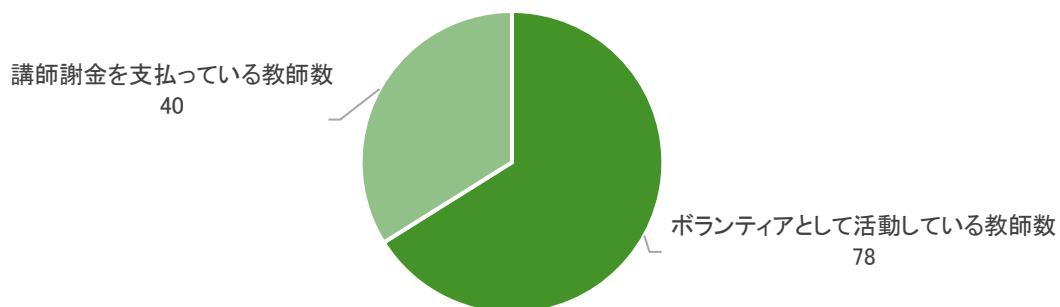
回答2：地域日本語教育コーディネーターに近い役割の人

研修受講歴及び資格	回答1	回答2
文化庁地域日本語教育コーディネーター研修修了者	3	1
HIA 主催コーディネーター研修受講者	6	2
有資格の日本語教師	4	4
該当しない	1	8

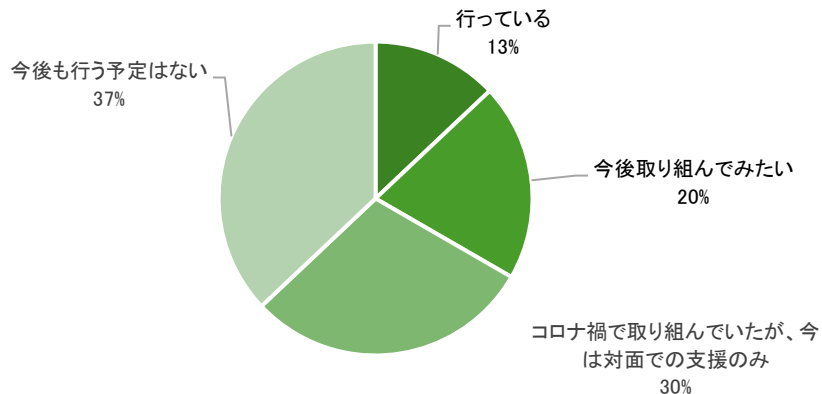
【問 7】活動に有資格の日本語教師が関わっている教室数



日本語教室の活動に日本語教師がかかわっているとした 37 教室において



【問 8】ICT を活用したオンラインでの学習支援実施状況



オンライン学習支援を行っていない理由について（自由記述の回答から項目を立て、内容を記載）

※コロナ禍で取り組んでいたが、今は対面での支援のみと回答した理由

項目	内容
対面での活動を重視	<ul style="list-style-type: none"> ・対面での活動が大切だと考えるため。 ・対面のほうがやりやすい。 ・対面のほうが話の幅が広がり、言いたいことが伝わりやすい。意思疎通しやすい。 ・対面での交流を重視するため。 ・学習者が対面学習を希望している。

II 調査結果 2. 国際交流協会・地域日本語教室（成人対象）

オンライン支援の環境やスキルの有無	<ul style="list-style-type: none"> ・支援者側がオンライン学習になじめない。 ・ネット環境やデバイス、スキル等の有無など個人差があるため。 ・パソコンではなくスマホだと集中が難しく、画面が小さく学習に限界がある。 ・スマホしか持っていない受講者が大半で、「画面に映る文字が読めない」、「声が聞き取りづらい」、「対面授業の方が理解しやすい」などの意見があり、無くなった。
-------------------	---

※今後も行う予定はないと回答した理由

項目	内容
予算、環境等の不足	<ul style="list-style-type: none"> ・予算上難しい。 ・スタッフが不足している。 ・支援者の高齢化により対応が難しい。 ・オンライン環境が整っていない。
必要がない	<ul style="list-style-type: none"> ・現時点で必要性を感じていない。 ・特に必要がない。

【問9】日本語支援を行う上で困っていること(自由記述の回答から項目を立て、内容を記載)

項目	内容
人材の確保	<ul style="list-style-type: none"> ・支援者不足及び高齢化。 ・教室が不便なところにあるため、登録するボランティア支援者が限られている。 ・日本語教師の需要が高まり、有資格のボランティアが減少している。 ・多様化した学習者の要望に応えようとするとマンツーマン支援が必要となり支援者が不足するため、学習希望者をいつでも受け入れるということができていない。
会場の確保	<ul style="list-style-type: none"> ・毎回貸室を確保しなければならない。 ・会場代がかかる。 ・公共交通機関の利便性が悪く、教室に来られないため学習をあきらめる場合がある。
マッチングの難しさ	<ul style="list-style-type: none"> ・マンツーマンのため、支援者と学習者のマッチングが難しい。 ・レベルや学習目的の多様化に支援者とのマッチングが難しい。 ・一度ペアを組むと依存度が高まってしまい、なかなか新。たなペアに移行しづらい
学習者の状況	<ul style="list-style-type: none"> ・学習者と連絡が取れないことがある。 ・学習者の参加が不安定。 ・学習者数が日によってバラバラで当日の参加人数の把握が難しい。 ・ムスリム女性は一人では参加できない。 ・仕事の残業等で休みが続くとグループレッスンでは進度を合わせるのが難しい。 ・参加率が天候に左右されるのでオンラインの導入を検討している。 ・就労者の勤務時間帯が多様化している。 ・学習者の日本語学習歴や必要とする学習内容が多様化し、マンツーマンでないと対応が難しい。 ・日本語教育機関がない山間部では、生活の日本語だけでなく JLPT 等の試験対策の支援を求められることがある。
教室活動の周知	<ul style="list-style-type: none"> ・必要な人に日本語教室の案内を届けることが難しい。

II 調査結果 2. 国際交流協会・地域日本語教室（成人対象）

学習支援方法	<ul style="list-style-type: none"> ・ 1週間に1回の学習では積み上げ式で習得するのは難しいので、ゆっくりに着実に日本語を身に着ける学習方法があれば知りたい。 ・ JLPT 受験希望者がどのように学習を進めればよいかわからない。 ・ マンツーマンで支援しているため、どうしても支援者それぞれの裁量に差が出てしまう。 ・ 学習者が求めているレベルにこたえることができない。
教材	<ul style="list-style-type: none"> ・ 学習者のレベルに応じた教材選びが難しい。 ・ いろいろなオンラインコンテンツがあるが、会場が決まった場所でない場合、インターネット環境が整わないことが多く使用が難しい。 ・ 支援者用の教材購入は自己負担になっている。

【問 10】教室運営で困っていること（自由記述の回答から項目を立て、内容を記載）

項目	内容
人材確保	<ul style="list-style-type: none"> ・ 支援者不足、高齢化。 ・ 教室運営に関わるボランティアが減少している。 ・ 新規支援者へのオリエンテーションや研修の在り方を模索している。 ・ 学習者の参加が不安定なため支援者のモチベーション維持が難しい。
資金不足	<ul style="list-style-type: none"> ・ 教材購入等の費用が不足している。 ・ 助成金だけでは支援者の交通費も出せない。 ・ 事業委託や助成金がなくなれば教室の継続は難しいという不安定さがある。
運営方針の不一致	<ul style="list-style-type: none"> ・ 支援者間で運営方針の違いがある。 ・ 支援者の年代によって考え方が違い、足並みがそろわない。 ・ 支援者のミーティングを定期的に行い、意見や要望、提言をフィードバックさせたいが、全員が集まる時間が取れない。
学習者の多様化	<ul style="list-style-type: none"> ・ 学習者のニーズが変化している。 ・ ゼロ初級者を随時受け入れたいが、対応が難しいため断らざるを得ない時がある。 ・ 学習者のニーズ把握が難しい。 ・ 学習者のニーズが多様化し、ボランティアで対応できることには限界がある。
日程調整	<ul style="list-style-type: none"> ・ 平日の教室参加者が減少したため土曜日開催に変更予定だが、増えるかどうかわからない。 ・ 毎週木曜の夜しか実施していないため、参加したくてもできない人がいる。
教室外活動	<ul style="list-style-type: none"> ・ 日本語学習以外に日本文化体験、料理教室等、いろいろなイベントを開催したいが資金が不足。 ・ バス旅行や文化祭などのイベントを行っているが参加者が少ない。
会場の確保	<ul style="list-style-type: none"> ・ 学習者が急増したときに部屋が確保できない。 ・ 日によって参加者数が一定ではないので、部屋の確保にその都度調整が必要。 ・ 会場が毎回確実に確保できるわけではない。
教室活動の周知	<ul style="list-style-type: none"> ・ PR が不足している。

【問 11】公的な取り組みとして必要と思うもの（上位 5 つまで選択可）



※その他の回答：30年あまり活動をしている地域の日本語教室に対する理解

【問 12】地域日本語教育の充実に向けて提供されているコンテンツや情報の認知度及び活用状況

文化庁「日本語教育コンテンツ共有システム（NEWS）」 https://www.nihongo-ews.bunka.go.jp/
文化庁「生活者としての外国人」のための日本語学習サイト「つながる ひろがる にほんごでの暮らし」 https://www.bunka.go.jp/seisaku/kokugo_nihongo/kyoiku/ICT_kaihatsuteikyo/index.html
文化庁 日本語能力自己評価ツール「にほんごチェック」 https://www.nihongo-check.bunka.go.jp/
HIA「役に立つ教材・情報」 https://www.hyogo-ip.or.jp/torikumi/tabunkakyose/kyozai/index.html

(1) 上記情報やコンテンツの認知度

(%)



（2）上記コンテンツや情報の活用状況

（%）

